

読書推進運動



公益社団法人
読書推進運動協議会

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町1-32

出版クラブビル6階

TEL 03(5244)5270

FAX 03(5244)5271

発行人 小塚 昌弘

編集人 片岡 伸子

No.637 = 野間読書推進賞特集 =



受賞者とその推薦者・関係者と、野間省伸会長、選考委員のみなさん



2020年(令和2年)

野間読書推進賞受賞者表彰(第50回)

☆受賞者

団体の部

・世田谷親子読書会

(東京都)

・おはなしの木

(宮崎県)

特別賞

・三島読書グループ

連絡協議会

(愛媛県)

☆賞

賞状および賞牌

☆副賞

金三十万円(団体の部)

金十万円(特別賞)

野間読書推進賞は、永年にわたって読書の普及に力を尽くし、読書推進運動に貢献された団体・個人を、全国からよせられる推薦のなかから選り抜くものである。毎年、「読書週間」の期間中に贈呈式が行われています。

× × ×
本年の贈呈式は、11月6日(金)午前11時から、東京都千代田区出版クラブビルにおいて、受賞団体の代表者2名と推薦者など受賞者関係者、読書運動関係者の出席のもとに開催されました。

野間省伸 公益社団法人読書推進運動協議会会長のあいさつ、つぎに選考委員会を代表し、野上曉さんが選考経過報告を行い、受賞者へ野間会長より賞が贈呈されました。国立国会図書館の吉永元信館長のお祝いのご挨拶に続いて、文部科学省総合教育政策局 地域学習推進課 課長 横井理夫さんの祝辞が代読されたあと、各受賞者があいさつに立ちました。

本年は新型コロナウイルス感染症対策のため、規模を縮小して、贈呈式のみで開催となりました。検温とマスクの着用、手指の消毒などへの、出席者のみなさまのご協力とご理解に感謝申しあげます。

受賞者業績

《団体の部》

世田谷親子読書会

住所 東京都世田谷区
代表 工藤 知子 さん

世田谷親子読書会は、東京都世田谷区砦の幼稚園保護者の「これまでになかった日本の現代児童文学作品を子どもたちに出会わせたい」との願いから、1968年(昭和43年)に発足。以来50余年、地道にかつ確実に多岐にわたる活動を通じてきました。

現在は、幼児1例会、小学生5例会、中学生3例会、高校生2例会、それ以上2例会の13例会で構成されており、例会ごとに原則月1回の活動をしています。各例会は所属する子どもたちの個性や希望にあわせ、親会員たちが取組内容の企画運営をしています。幼児例会は小学校入学で卒業し、新例会を立ち上げ、その他の例会同様、同じ学年の子どもたちの集団で続けられています。

各例会では読み聞かせ、読書会などに加え、講師を招いての講演会やワークショップ、ビブリオバトル、創作活動など、子どもたちの豊かな感性や創意工夫を育てる多彩な要素が盛り込まれています。また、世田谷美術館・世田谷文学館や、遠方の図書館訪問、伝統文化鑑賞などを取り入れる例会もあり、本を「読む」だけでなく本を通して体験も大切にしてきました。

各例会の世話人と事務局は、月1回の世話人会で運営について話しあいと事務連絡、各例会の活動報告で情報を共有しています。会報誌『しおり』を、各例会のしおり当番が集まり、年6回作成。例会の活動紹介、イベント報告、推薦図書紹介などが掲載されており、会の活動をふり返るよい記録となっています。

全体でのイベントとして、子ども対象の「子どもフェスティバル」、一般対象の「勉強会」をそれぞれ年1回開催。「子ども」は他学年との交流の場として、ま

た近年では会員以外にも参加を募り開催しています。「勉強会」は外部から講師を招き、親会員の学びの場となっています。

世田谷親子読書会はまた、世田谷区立砦図書館利用者懇談会に所属しており、地域が求める図書館像について、図書館職員、その他利用団体と意見交換を行っています。この働きは、地域図書館の振興を地域の利用者として支える、地域での読書活動推進の基礎となるものです。

砦図書館へは、幼児対象のおはなし会に例会からボランティアを派遣し、「砦としよかんまつり」に積極的に協力しています。砦図書館との根強い連携協力も、世田谷親子読書会の大きな特徴であり、評価すべき点です。

【推薦者】

親子読書地域文庫全国連絡会

代表 原 良子

《団体の部》

おはなしの木

住所 宮崎県宮崎市
代表 土田 さゆき さん

おはなしの木は1986年(昭和61年)に、読み聞かせやストーリーテリングを通じて、子どもたちに本を読む楽しさを伝えるために、宮崎県立図書館「ボランティア養成講座」の参加者を中心となり、設立されました。当時、宮崎県内では子どもたちへの実演活動はほとんど行われておらず、設立以来、宮崎県立図書館での週1回のおはなし会を重ねてきたおはなしの木は、県内の先駆けとして高く評価されています。活動の拠点である県立図書館では年2回、夏と冬に親子で楽しめる特別なおはなし会も企画・運営し、冬には大人のためのおはなし会でも大人にも絵本やおはなしの楽しさを知ってもらうなど、活動の対象を広げています。

設立以来、おはなしの木は月1回、定期的な勉強会を重ね、実演技能の維持・向上を図ってきました。とくに、ストーリーテリングに力を入れています。現在の会員

数は46名で、入れ替わりはありますが、人数はほぼ変わらず活動が続いています。これは、自分たちで絵本の読み聞かせ講座などを開講し、新しい会員を募ってきた成果といえます。

また、おはなしの木は、宮崎県立宮崎病院小児病棟でも、32年間 毎週金曜日におはなし会を開催し、闘病中の子どもたちに本の楽しさを伝えてきました。

そのほかにも、木城町・木城えほんの郷のイベント運営の協力、社会福祉法人施設、県内の幼稚園・保育園・小学校・中学校などでもおはなし会を行っており、活動の広がりは県内随一です。

県内の読書活動推進、読書ボランティアおよび指導者の育成にも熱心に取り組む、読み聞かせの経験が少ない保護者を対象に、継続して「読み聞かせ講座」を開催しています。また、2015年度平成27年度「宮崎県読書フォーラム」では、ストーリーテリングを実演。県子ども政策課が主催する幼稚園・保育園職員対象の読み聞かせ講座へは、毎年依頼を受け、会員を講師として派遣しています。

おはなしの木はこれまで、宮崎県の読書活動の先導役として、

多大な貢献をされてきました。2017年(平成29年)の「子ども読書活動優秀実践団体に対する文部科学大臣表彰」をはじめ、受賞歴も多く、これからますますの活躍が期待されます。

【推薦者】

宮崎県読書推進運動協議会
会長 中原光晴

《特別賞》

三島読書グループ 連絡協議会

住所 愛媛県四国中央市
会長 森川 啓子 さん

三島読書グループ連絡協議会は、1964年(昭和39年)11月に伊予三島市読書グループ連絡協議会として発足し、2004年(平成16年)に市町村合併にともない、現在の名称に改名。四国中央市三島図書館を拠点に、3読書会22名の会員が「お互いに学び合い、磨き合い、共に向上したい」をモットーに地道な活動を重ねて、今年創立56周年を迎えます。

伊予三島市内では1962年(昭和37年)より読書グループが結成されてきました。1977年(昭和52年)に当時の三島図書



館館長が市内各種団体に読書会の結成を呼びかけ、これまで以上に多彩な読書会が誕生したことにより、協議会の活動が大きく広がります。翌年には、伊予三島市読書活動研究大会を主催し、事例発表、感想文発表、講演会などに加え、各読書会の活動写真や文集、記録も展示され、研鑽と交流を深めました。

同時期より、市文化祭への積極的な参加、市内・愛媛県内各機関での講演活動、さまざまな分野から講師を招いての読書講演会の開催、会員との親睦や他県読書グループとの交流を深めることを目的とした研修旅行など、現在の活動の中心となっている行事・取組がはじまっています。

とくに、毎年11月に開催される四国中央市文化協会文化祭では、「言葉の楽しさ、言葉のちから」をテーマに継続的な展示やイベントを行い、幅広い世代に読書や地域文化の魅力を伝えてきました。これまでに、市内史跡の紹

介展示、ビブリオバトルの紹介(その後、12月にビブリオバトルを主催)、郷土民話の語りなどを行っています。

また、1998年(平成10年)の読書講演会では、朝の読書を推奨する林公さんを講師に招き、市内小中学校の校長・図書主任教諭・PTAなどに研修の場を提供しました。その2年後には愛媛県内ではじめて、市内すべての小中学校で朝の読書が実施されるようになりました。これをきっかけに、会員の有志が学校での読み聞かせ活動を開始しています。

2006年(平成18年)からは、市内保育園保護者を対象としたおはなし会を開催し、家庭での読書普及にも尽力をするなど、いっそう、地域の読書活動への貢献に努めています。

愛媛県読書推進大会、愛媛県読書活動研究大会へも積極的に参加して事例発表も多く行っており、各読書会の自主性を重んじながら、ともに高めあい、地域の読書推進に尽力する姿は、県内の読書グループへ大きな刺激となっています。

【推薦者】

愛媛県立図書館
館長 願成寺優

★受賞決定までの経過

●2020年(令和2年)5月15日

☆選考委員

全国都道府県教育委員会委員長
および教育長、都道府県中央図書館および読書推進運動協議会のほか、全国市町村教育委員会連合会、日本PTA全国協議会、日本新聞協会、日本放送協会、日本民間放送連盟などに候補者推薦を依頼しました。

秋本 敏

●2020年(令和2年)7月31日

公益社団法人 日本図書館協会
図書紹介事業委員会 委員長
黒木義博

●2020年(令和2年)9月3日

公益社団法人 全国学校図書館協議会
総務部部長代理 読書活動振興プロジェクト担当
野上 暁

●2020年(令和2年)9月14日

児童文学・文化評論家
一般社団法人 日本国際児童図書評議会 副会長
(五十音順)

●2020年(令和2年)9月14日

感染症対策のため、選考準備委員会を画面にて開催。委員に資料を送付、各候補者への評価・その理由を回答いただき事務局でまとめ、再度委員の意見を仰ぎ、最終的に9団体を選出。これについてさらに実情調査などの結果をまとめ、選考委員会に提出しました。

●2020年(令和2年)9月14日

選考委員会を開催。慎重な審査の結果、2団体の野間読書推進賞、1団体の野間読書推進賞特別賞受賞を決めました。



選考経過報告をする
野上暁さん

挨拶と祝辞



贈呈式 主催者挨拶

公益社団法人 読書推進運動協議会

会長 野間 省伸

本日「野間読書推進賞」を受賞されるみなさま、本当に、おめでとうございます。

「選考にあたられた野上曉さま、秋本敏さま、今回あらたに選考委員をお引き受けいただきました黒木義博さまのお三方、本当にありがとうございます。

今年は新型コロナウイルス感染症の流行もあり、贈呈式を行うべきかどうか慎重に検討してまいりましたが、このようなときだからこそ、永年、読書の楽しさを伝える活動をしてこられたみなさまを顕彰し、直接、賞状をお渡しすることといたしました。お忙しいなか、お越しくございました、国立

国会図書館長の吉永元信さまはじめ、ご列席のみなさまに、厚くお礼を申し上げます。

「野間読書推進賞」は、長く読書の普及に力を尽くし、読書推進運動に貢献してこられたみなさまに對して贈られ、今回、第50回を迎えました。本日は本賞2団体、第50回記念の特別賞1団体を顕彰いたします。本日受賞されるみなさまを含めて、受賞者は232の団体・個人の方々を数えます。

また10月27日にはじまった第74回読書週間は、来週月曜日の11月9日までつづきます。今年の標語は「ラストページまで駆け抜けて」です。今年のポスターも標語にふさわしい、楽しく躍動感の感じられるものとなっております。

今年は感染症対策のため、春先から図書館の休館、学校の休校を余儀なくされ、各種イベントも中止になるなど、読書推進運動にとっては試練の年でした。その一方で、巣こもり生活のなかで、本を読むことの楽しさ、すばらしさが再認識された年でもあります。来年こそは感染症が終息して、受賞者のみなさま、読書推進運動にたずさわる方々が安心して活躍でき、贈呈式が盛大に開催できま

祝 辞

文部科学省 総合教育政策局
地域学習推進課

課長 横井 理夫

本日受賞されたみなさまは、各地域などにおいて長年読書活動の推進に精力的に取り組まれ、地域における読書活動の普及に大きく貢献されてこられました。本日の受賞について、心からお祝いを申しあげるとともに、みなさまの読書普及への熱意ある取組に対し、深く敬意を表します。

今日、われわれを取り巻く環境は、「人生100年時代」や「ソサエティ5.0」の到来など、社会が大きく変化するなかにあつて、今後多様で複雑化する課題と向かい合いながら、一人ひとりが豊かな人生を送ることのできる持続可能な社会をつくるには、すべての人が生涯にわたって主体的に学び続けることのできる環境がいっそう重要となります。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、自宅で過ごす時間が長くなる子どもも増加し、読書の重要性がさらに高まっています。

読書は子どもにとって、ことはを学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものに、人生

をより深く生きる力を身につけるうえで欠かせないものです。子どもたちが読書を通して心豊かになくましく成長するために、社会全体で積極的に読書環境の整備を推進することがきわめて重要です。

文部科学省としても、平成30年4月に閣議決定された第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」に基づき、読書習慣が身につけていない子どもがいるという課題に対しては、幼少期からの絵本の読み聞かせなど「発達段階にに応じて本の内容や読み方を変えるなど工夫し本に親しむ取組」を推進しております。また、新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休業期間における児童生徒の学習支援方策のひとつとして、子ども読書活動を推進するため、子どもの読書活動を推進するに、子どもの読書キャンペーン、きみの一冊を探そう」の特設WEBページを設けました。

読書推進運動に貢献されているみなさまにおかれては、わが国における豊かな読書環境の実現のため、これまでの知見や経験、そして専門性を生かし、引き続き読書活動の推進にご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

お祝いのことば

国立国会図書館

館長 吉永 元信

今回受賞されたみなさまが、長年、読書の普及にご尽力され、本を読むことの楽しさを伝えてこられたことに、深く敬意を表します。

今年に入つて、新型コロナウイルス感染症の影響で、デジタル化やオンライン化が急速に進んでいます。しかし、このような時代だからこそ、実物の本のページをめくり、想像力を働かせることが大事なのではないかと思ひます。現在、読み聞かせやおはなし会などはさまざまな制約に直面していることと思ひますが、みなさまの活動が地域の中で持続していくことを願っております。

子どもの読書活動推進に関しては、上野にある国立国会図書館国際子ども図書館が、国立の児童書専門図書館として、関係機関との連携や調査研究等に取り組んでおります。その国際子ども図書館は、今年開館20周年を迎えました。今後とも子どもの読書活動推進を支援するため、外部とのいっそうの連携協力を推進していきたいと考えております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

野間読書推進賞を受けて



本から広がる新しい世界を
子どもたちに

世田谷親子読書会

代表 工藤知子（東京都）

世田谷親子読書会の設立は1968年の9月。世田谷区砧で子育てをする保護者の、これまでになかった日本の現代児童文学作品を子どもたちに出会わせたいという願いから発足いたしました。現在も世田谷区立砧図書館を拠点とし、おもに成城・砧地域の親子で活動をしています。

幼稚園生の例会がひとつと小学生以降は学年ごとの例会となり、現在13例会、会員数が親子あわせて140名ほどとなっております。

発足当時から20年30年くらいまでは、司会者を立てて毎月1冊の課題本を読んで話しあうスタ

イルでした。現在は各例会内の母たちで選書から例会の進行を行っており、工作やお出かけ、ゲームなど、読書だけではなく本や本にまつわるさまざまなことに興味を持てるようなきっかけをつくることを、積極的に取り入れていきます。実際、母たちは自分の子の年代にあわせた選書や企画など毎月苦勞しています。しかし、上の学年の活動報告やそれぞれの子どもたちが興味を持っていることをヒントに活動を企画したり、子どもたちのやってみたいことを取り入れて本に繋げていくようにしています。たとえば味噌を作る会では、大豆や食べものの絵本を導入として読み聞かせてから、みんなで味噌を作りました。

現在は電子書籍の拡大や書店の減少により、本を直接手に取り、本との運命の出会いをはたすことが減っていると思います。そのために読み聞かせて新しい本に出会ったり、おたがいの好きな本を紹介しあう読書会での機会は貴重です。小さい子から大きい子まで紙芝居や大型絵本はなかなか見る

機会がないため、いつもより反応がよく、子どもたちの印象に残るようです。

また、いまの世田谷親子読書会は学校とは違う居場所づくりや1冊の本を囲んでそれぞれの意見の違いや発見を親子で楽しむことを大切にしています。自粛期間中にオンラインで読み聞かせやトークゲームをした例会もあり、新しい活動の一步であると思います。

このように試行錯誤を続けながら活動を続けてきたことで賞をいただくことになり、贈呈式ではた

くさんの方々からいままでの多様な活動についてお褒めのことはをいただきました。会員数が徐々に減少し読書会の活動にむずかしさを感じていましたが、今回の受賞により、先輩方が守りつないでできた読書会のすばらしさを再認識することができました。

また、今回贈呈式を一緒にさせていただいた宮崎のおはなしの木さんをはじめ、これまでの受賞団体のみなさまからメッセージをいただいたことから勇気をいただきました、ありがとうございます。

いまも昔も子どもたちに自由に本を読んでもらいたい、本のおもしろさを感じてもらいたい、そこから広がる新しい世界に期待する考えは変わりません。

世田谷親子読書会は今後も親子でまた仲間と本を楽しむ環境を続けていきたいと思います。



「上」コロナ禍のなか、広い公園での「青空読み聞かせ」では季節も感じて
「下」2016年の「こどもフェスティバル」では、新聞紙ドームを作り、遊びました



⇒笑顔であいさつする
工藤さん



⇒開式前の会場での工藤さんと
副代表の橋合さん

野間読書推進賞を受けて



子どもに語り継ぐ
おはなしの世界

おはなしの木

代表 土田さゆき(宮崎県)

昔話や物語を「おはなし」とい
うかたちではじめて聞いたとき、
物語が頭の中で映像となり。想像
の世界が広がりました。そして、
自分も語り手となってこの楽しさ
を子どもたちに届けたいと思いま
した。まだ宮崎ではストーリーテ
リングというとはさえず知られて
いなかったころです。そこで語り
手を招いて「おはなし会」を開き
ました。『かしこいモリー』『ちい
ちやいちやい』『や日本の昔話
に、大人も子ども大喜びでした。
これが「おはなしの木」の種ま
きでした。

こうして、おはなしの楽しさや

それを聞いた子どもたちの反応を
知った仲間たちで、おはなしの勉
強会「おはなしの木を発足するこ
とができました。35年前に蒔いた
種は大きく元気に育っています。

おはなしを覚えて語るのは、た
いへんな努力と時間がかかります
が、語り手の温かい声を通したお
はなしの世界に、聞き手の子ども
たちが身を乗り出して入りこんで
くるとき、テレビやビデオには代
えがたいものが子どもたちに届い
ています。

「おはなしの木」は月1回の例会
でおはなしを語りあい、学びあっ
てきました。定例の活動として
は、県立図書館の児童室で毎土曜
日、小さい子と大きい子のおはな
し会、県病院小児病棟では毎週プ
レイルームと病室で30年以上続け
ています。このほか、定期的にこ
ども園・小中学校でのおはなし会、
講演会、子どものためのおはなし
会、大人のためのおはなし会、絵
本講座、おはなし交流会などを企
画してきました。

また、宮崎の山あいの美しい
自然の中にある「木城えほんの

郷」のボランティアスタッフとし
て、絵本の原画や絵本と出会うこ
とは、活動の原動力ともなってい
ます。「昔話の再話研究会」では、
地元のおはなしの再話にも取り組
み、土地ことばでも語られるよう
になり、おはなしの世界がさらに
広がって樹を太くしてきました。

そして、「おはなしの木」には
新芽もたくさん出てきて、おはな
しや絵本を通じて出会った仲間た
ち(45名)と、いまでも元気に成長
を続けています。

おはなしを心をこめて届けることが、
私たちの役目であり、喜びです。
このように、ひとつひとつの企
画をいいねいに、真摯に取り組ん
できた結果のこのたびの受賞は、
たいへんうれしく、みんなで喜び
あい、励みとなりました。コロナ
で活動もままならぬこのごろです
が、こんなときこそ絵本や物語を
通して、子どもたちの心を育む活
動をしていきたいと思っています。

*贈呈式には副代表の前野麻美子
さんが出席されました(顔写
真は前野さん)



「一」設立以来、35年間続けている、宮
崎県立図書館児童室での「小さい子
のおはなし会」
「二」次代の語り手を育てる「読みきか
せ講座」

第50回 野間読書推進賞贈呈式



⇒野間会長から賞状を受ける
前野さん

⇒贈呈式には副代表の前野さんと
宮崎県立図書館坂尾さんが出席



野間読書推進賞を受けて



読みを深め、ことばの
ちからを地域へ

三島読書グループ
連絡協議会
会長 森川啓子(愛媛県)

「野間読書推進賞 第50回特別賞」という思いもかけない身にある賞に、会員一同とまどい恐縮しながらも光栄なこととうれしく思っております。

3グループで構成される三島読書グループ連絡協議会は、講演会や研修旅行、市文化祭などで交流を行うとともに、それぞれが毎月読書会で研鑽し活動記録を残してまいりました。

本はひとりでも読めるけど、「なぜだろう」と疑問に思う文章に出会ったとき、みんなで話しあうことによって、読みが深まり、考える力が磨かれてきたような気がし

ます。感動を聞いてもらいたい。聞かせてもらいたい。そんな会話のなかに、生きるヒント、子育てのヒントが散りばめられています。

そして、琴線にふれるたぐいのごとばに出会え、それがなにごとかを決断するときの指針となつたことも、たびたびありました。なにより、自分には難解な本と

思いながら、2年かけて読み通した森信三著『修身教授録』は、読書会ならではの深い読みができたと思えます。

「ほんものは続く にせものでも続けるとほんものになる」を指針に、おたがい学びあい、磨きあい、ともに向上しながら読書会活動を続けてきて、このたび「特別賞」を受賞することができましたのは、活動をご支援いただいた四国中央市三島図書館、愛媛県立図書館のおかげと心より感謝いたしております。

連絡協議会が発足して56年。会員の多くは高齢者世代となりましたが、読書によって多大な恩恵を受けてきた私たちは、ひとりでも多くの子どもたちがおはなしの楽

しさにふれ、そして感動する心を育てたい、読書の大切さを伝えたいと切に願ってきました。

市文化祭で開催しております「民話を語る」会は、地域に貢献する活動といえるようなものではありませんが、郷土に伝わるおはなしを子どもたちと一緒に楽しむことによって、自分たちの住んでいる町に愛着や誇りを持つてもらえたら、本を読むことがより好きになつてもらえたらとの思いではじめました。

子どもたちや会員が語る民話を



聞き、会場のみなさんは顔を綻ばせておはなしにひたり、会が終わつてからも子どもたちを交えて会話が弾みます。その様子を見て、ことばのちからを実感します。そして、ことばのかけ橋によって、子どもたちの世界を少し広くする手助けができたのではないかとうれしくなりました。

今回の受賞の喜びを励みに、これからも輝く出会いを大切にして読書活動が続けてまいりたいと思



「二」 みんなで読んだ作品の背景にふれて読みを深める研修旅行は、会員の交流も深める
「五」 子どもたちに郷土の民話をつなぎ、読書へ誘う「民話を語る」会



⇒国立国会図書館 吉永館長
からの祝いのことば



⇒会場内に飾られた賞牌



式の前後はなごやかに……

贈呈式のための開催となった今回ですが、開式前の控え室では受賞者・推薦者同士でおたがいの活動を紹介しあいました。また、会長、選考委員も控え室で歓談。「例年よりも受賞者とお話できてよかった」との声も。

開式後は出版クラブビルライブラリーで図書展「となりの国への扉——日中韓共同プロジェクトと絵本作家からのメッセージ（企画＝JBBY）」を、JBBY 副会長でもある野上選考委員の案内で楽しみました。



会場内の座席は充分な間隔をとって配置（左は開式前）



野間読書推進賞賞牌

第1回から第14回までを「読書推進賞」と称し、1985年(第15回)から、故人の遺徳を偲んで「野間読書推進賞」と改称しました。

この賞は1969年(昭和44年)、講談社社長・野間省一氏(当時・故人)から、読書推進運動協議会が社団法人となったことを機に、基本財産として金1千万円、その後、講談社創業70周年、80周年を記念して計3千万円の寄付を受け、その基金を中心に贈呈しています。

この賞は1969年(昭和44年)、講談社社長・野間省一氏(当時・故人)から、読書推進運動協議会が社団法人となったことを機に、基本財産として金1千万円、その後、講談社創業70周年、80周年を記念して計3千万円の寄付を受け、その基金を中心に贈呈しています。

「野間読書推進賞」は、「読書週間」の関連事業として1971年(昭和46年)に創設したもので、地域・職業などにおいて、永年にわたって読書の普及に力を尽くし、読書推進運動に貢献された団体・個人を顕彰してまいりました。

多くの事業を行っております。

★野間読書推進賞について

公益社団法人 読書推進運動協議会

は、出版界と読書界との協調をはかり、広く国民各層に対し、読書の普及を促進し、もってわが国の文化と社会の進展に寄与することを目的として、1959年(昭和34年)に創立。以来、「読書週間」をはじめ

野間読書推進賞 これまでの受賞者からの近況報告

第21回 1991年

個人 小林静子さん（栃木子ども本連絡会） 栃木県

*「野間読書推進賞」も50回目の年を、「図書館法」は施行70年目を迎えました。子どもと本の繋ぎ手として、この活動を続けていきたいと思います。

第24回 1994年

個人 清水達也さん（「遊本館」継承者清水喜久栄さん） 静岡県
*10月に「遊本館だより100号」を刊行します。いま（編集部注）10月初旬）印刷中です。25年前に遊本館が開館したとき、ロンドンの漱石記念館の恒松郁生さんから祝電をいただいたことを書いてあります。漱石記念館が昨年再開館したこともあり、発行したら送ろうと思っています。

第27回 1997年

団体 大阪府子ども文庫連絡会（森本典子さん） 大阪府

*今年度、大阪府子ども文庫連絡会は、新型コロナウイルス感染拡大のため、3か月遅れの9月より、児童文化講座を再開しました。さ

まざまな制約があるなか、試行錯誤ではありますが、活動を続けています。

第29回 1999年

団体 石川子ども文庫連絡会（臼井ゆかりさん） 石川県

*今年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、一堂に会しての定例会は持たず、会報を通して会員同士のつながりを深めています。わらべうた、詩、リレーエッセイ、みんなどうしてる」と称して、コロナ禍での近況報告、また、特集として県在住の児童文学



清水喜久栄さんからは『遊本館だより』100号もいただきました

受賞者へのメッセージとともにいただいた、これまでの野間読書推進賞受賞者からの近況報告をご紹介します（文章を一部、割愛しています）。

作家や紙芝居の会主宰者からの寄稿文も掲載しています。

第32回 2002年

団体 一般社団法人 沖縄県子ども本研究会（平良京子さん） 沖縄県

*例年、開催している「子ども本の学校」「読書まつり」が今年中止になりました。そんななか、ステイホーム研修として、12月に来年の「王支人形製作とブックトーク」を計画中です。また、YouTubeでの配信をはじめました。

第34回 2004年

団体 堺市子ども文庫連絡会（藤川賀代さん） 大阪府

*コロナにより自粛期間中は活動を休止しておりましたが、解除とともに三密など気をつけつつ、活動を再開いたしました。「文庫まつてたよ！」という子どもたちの声を聞き、公園で青兎文庫という形をとって再開した文庫もあります。画面ではなく、対面の大事さに、あらためて気づかされております。



大阪府子ども文庫連絡会＝大子連は毎月「大子連ニュース」発行

第35回 2005年

団体 大欠なかよしバス図書館（虎渡進さん） 秋田県

*45年目をむかえましたが、地元小学校が統合で廃校になったため、授業や行事で来館されなくなり、いまは地域の小学生数名だけになりました。子どもがいるかぎり続けるつもりです。いま、社会が家庭にいる時間が長くなっています。そんなときこそ、本に親しむ時間に充ててほしいものです。

第37回 2007年

団体 「本の学校」生涯読書をする会（足立茂美さん） 鳥取県

*予定していた講演会やワークショップなどは、すべて中止となりましたが、会報の「Book & Life」を活用して、（私のおすす

めの一冊」という特集を組みました。心をつなぐ本の力で、新しい形の交流ができればと思っています。

奨励賞 岩本紘一さん（院内石橋ゆめ本の蔵 大分県）

*当方、超過疎地で平家物語朗読会8年目、その輪を年々拡大しています。今年は11月1日の古典の日記念イベントとして、県立図書館で「あなたの知らない『平家物語』の世界」のタイトルで、若き高倉天皇の悲恋物語『葵前』の講演を予定しています。

第38回 2008年

団体 十勝子どもの本連絡会（沼田陽子さん） 北海道

*コロナのため思うように活動はできませんが、こんなときこそこをばを大切に、仲間とのつながりをつないでいます。早くマスクなしでたくさん語りあいたいと思っています。いまできることを慎重にやっています。

第39回 2009年

団体 美原読書友の会（奥田歌世子さん） 大阪府

*世相により集まりも少なく、先月の読書会『銀河鉄道の父』は、本好きのメンバーが多く集まりまして盛況でした。少し間を置いて座りましたが、活発な意見で盛り



いただいたメッセージは冊子にして
受賞者へお渡ししました

上がり、ひさしぶりのお顔に一同喜んでおりました。平常に戻り、部屋いっぱいになる日を待っています。図書館は賑わっていて、うれしいです。

第40回 2010年

団体 青森市読書団体連絡会（西村恵美子さん〈第45回 個人〉）
青森県

*この秋は恒例の「風のはこんだおはなし会」ができません。そこで、小学校へ本とおはなしを届けるかわりに、こそあどブックリストを作成しました。青森市内の全小学生に配布します。このようなときだからこそ、本は大切な薬ですね。

個人 上石嘉代子さん（塩尻市民読書の会） 長野県

*令和元年度の学年末に小学校か

ら、「1年間読み聞かせをありがとうございました」とうございました。子どもたちは毎回、読み聞かせの日を楽しみにしておりました。感想を日記に書いてくる子や、読んでいただいた本を図書館で探す子がいるほどでした。ほんとうにありがとうございました。来年度もよろしく願います」とのおたよりをいただき、ほっと胸をなでおろし、4月からを楽しみにしていたところ、コロナ禍で読み聞かせはお休みとなってしまう、いまは再開を待っているところです。

個人 境ツヤ子さん 佐賀県

*入院中、『読書推進運動』を楽しみに読んでいます。

第41回 2011年

団体 みきおはなし会*絵本の森（西尾美智子さん） 兵庫県

*会の発足30年を迎え、絵本作家の講演会を図書館と企画していましたが、この状況下で延びています。実現できる日が待ち遠しいです。

奨励賞 一般財団法人 鹿児島県青年会館 州舎（松下育郎さん）
鹿児島県

*地域再発見のための読書活動20年目です。今年のテーマは「宝島をさがしてー島のくらしに学ぶトカラ列島（十島村）」。

青年

たちと一緒に、島の昔話や自然歴史、文化を学びます。島へオンライン配信もチャレンジしました。

第42回 2012年

団体 関音訳の会 しおん（波多野いと子さん） 岐阜県

*コロナ禍で3月～8月まで、5グループ中、視覚障がいの方にとって情報源である広報のみの活動となりました。身体を密着する

介助人も自粛となり、外出できない視覚障がいの方々は、交流会などもすべて中止となり、落胆されておりましたが、リクエスト本を多くいただき、各グループが活動できない分、この要望に呼応し喜んでいただけました。

また、街頭募金のできない盲導犬協会から、はじめて寄付金願いがあり、会費のなかからと会員個人寄付金を盲導犬協会へお贈りしました。現在は、各グループとも三密を避け、活動を再開。音訳録音、CD発送をし、声をお届けしています。

団体 ひろしまストーリーテリングの会（村本佐知子さん） 広島県

*9月初め、会の設立以来長年ご指導、支えてくださった岡山の筒井悦子さんが逝去されました。会

員はたくさんの方の心を学びました。「目の前の子どもへの心を受け止める」「一期一会を大切に」「語り手自身の「センス・オブ・ワンダー」を感じる」ことなど。数々の教えー語り手としての心構えは、会員にも受けつがれていくことでしよう。生（なま）の声でおはなしを届けられる状況が、少しでも増えていくことを願って、例会を続けていきます。

団体 人形劇団んまだいしょう（奥平久乃さん） 沖縄県

*毎年、地域のおはなし会などのグループと、社協や文化協会のイベントに企画を立ちあげ開催し、子どもたちも楽しみにしてくれています。今年度はコロナ禍の影響で、地域イベントや普段の活動も中止・自粛で、ほとんど活動できていません。しかし、各グループと状況確認しながら、来年に向けて希望をつないでいきます。

奨励賞 清水泰子さん（大平町点字の会「どんぐり」・麦の会） 栃木県

*弱者用の大活字本を作っています。これまでどおりの製本に加え、プライベート依頼で、小学校社会科の副読本を作っています。写真、地図、さし絵など、なるべく原本どおりにとのご要望で、カラーコピー多用、ほとんど手作業



です。弱視者は一人ひとり、読める条件が異なり、それにあわせて本作りの必要を痛感しています。また、プライベート依頼がくるまでに活動が知れ渡ったことに、大きなやりがいと責任を感じています。

第43回 2013年

団体 語りの会 はまなす(吉村五三子さん) 青森県

*保育園・幼稚園・小学校・児童館、そして介護施設など「出前おはなし会」が多くなりました。子どもたちに読み聞かせをしているうちに、自分たちも新しい本と出会ったり、感激したり……仲間も年をとってききましたが、新しい人も少しずつ加わって、たのしく活動が続いています。

団体 絵本読み聞かせの会 おむすびころりん(白内恵美子さん) 宮城県

*25年ぶりに記録集を作成しました。「おむすびころりん」のこの10年(2010年4月〜2020年3月)です。激動の10年間の記録となりました。

団体 しらはま子どもの本の会(坂本美枝子さん) 和歌山県
*1986年(昭和61年)2月の発足以来、休会の際がなかった(毎年8月はお休み)のですが、

コロナのせいでではじめて3か月、お休みすることになりました。4月に例年なら年間計画を立てるのですが、それも6月に。少しずつ、前に進んでいけたらなと思っています。

第44回 2014年

団体 特定非営利活動法人 函館視覚障害者図書館(森田直子さん) 北海道

*視覚障がい者など、読書に困難な方々へのサポートを続けております。サビエ図書館からのダウンロード数も多く、デジジ図書館の製作にも1冊でも多くと取り組んでおります。

個人 寺澤敏子さん 群馬県

*9月に群馬県教育委員会からの依頼で、読み聞かせ講座の動画を収録いたしました。コロナ禍で研修会が開催されず企画されたものです。動画は約52分で「読書推



群馬県教育委員会「読み聞かせ講座」
動画のチラシとツルノス QRコード

進『ボランティアのための読み聞かせ講座』というタイトルです。絵本の選び方や読み方など、ボランティア向けの内容のほかに、家庭での読み聞かせにも役立つようおはなしをいたしました。動画投稿サイト「YouTube」の県公式チャンネル「ツルノス」で配信中です。

第45回 2015年

団体 特定非営利活動法人 岩手点訳の会(横澤忠さん) 岩手県

*昨年は10月の会創立60周年を記念して記念誌を発刊しました。また、記念事業の一環として「宮沢賢治コレクション」全10冊の分担点訳や、点訳絵本の作成などに取り組みました。今年は、毎月の例会を同じ内容で前後2回にわけて行うなど、三密回避を工夫しながら開催しております。一堂に会して開催できる日を待ち望んでおります。

個人 野々上律子さん(吹田子) 大阪府

*9月から、さまざまな活動がコロナ禍のなかで再開しています。自粛の間、セルマ・ラーゲルレーヴ作『ニルスのおしぎな旅』上下巻(菱本晃子訳・福音館書店)を読みました。小人にされたニルスとがんの群れとのスウェーデンの

南から北への空の旅。大きな森、美しい湖、嵐にあつたりキツネに襲われたり……知恵と勇気と友情のなかで成長していくニルスと、の本当に楽しい冒険旅行でした。伝説や地理もおもしろくて。子ども本の世界が作ってくれたかけがえのない時間でした。

第46回 2016年

団体 グループわらべ(佐々木文子さん) 岩手県

*遠野民話のふるさと、精霊たちと共存しているグループわらべです。この4月からコロナ感染対策で活動もなくなり、さびしくしていましたが、会員の声がかけて紙芝居(大型)づくりをはじめました。

『遠野物語』第2話『とおの三山』……三人姉妹の女神の話です。遠野盆地を囲む山々には神さまが住んでいる……早池峰山、六角牛山、石上山の三つの山の神さまの話です。10月いっぱいまで完成です。六角牛山は『おらおらでひとりいぐも』作者、若竹千佐子さんの実家の目の前の山です。

団体 村山朗読会(大場ひろみさん) 山形県

*コロナ禍のなかなので、図書館の活動は6月より、マスク、フェイスシールドをつけ、はじめております。ようやく11月に、小学校

と高齢者サークルに訪問公演する機会がめぐってきました。いままで目の前近くで、本を読み、おはなしを伝達できたことはとても幸せなことだったのだと、しみじみ思っています。これからもできるかぎりの準備をして、活動に取り組もうと、気持ちを新たにしております。

個人 平田恵美子さん(沖縄県子) 沖縄県

*沖縄県子どもの本研究会活動として、自作の『うずらかあさん』をYouTubeで発信しています。どうぞご覧になってください。

奨励賞 富士見町宅配ボランティア(御子柴啓子さん) 長野県

*新型コロナウイルスの終息がみられない現在、介護施設への訪問ができずにおります。本の宅配は希望者が多く、感染に注意しながら続けております。音読講座も回数を重ねてまいりましたが、現在は開催できません。

特別賞 一般社団法人 日本子ども本研究会(水越規容子さん) 東京都

*秋に予定していた全国大会は、オンライン開催となり、10月18日に無事終了しました。初の試みでしたが、なんとか終えることができ、リアルとオンラインのふたつ



川端英子さん「のぞみ文庫50年」は文庫で育ったみんなの「いちばん好きだった本」が勢ぞろい!

の可能性を手に、これからもさまざまな事業に取り組みたいと考えています。今後もよろしく願います。

第47回 2017年

個人 川端英子さん(のぞみ文庫)

宮城県

*自宅の「のぞみ文庫」は50周年になります。12月にとよたかずひこさんをお迎えする予定です。無事に行われるかドキドキしながら、「50年記念誌」を世話人たちで手作りしている最中です。(編集部注)後日、11月中旬以降の感染症拡大を受け、残念ながら行事は中止しましたとのご報告をいただきました。

個人 浅川玲子さん (山梨県)
*NPO法人山梨子ども図書館で

は、主要事業として「子どもの本の専門家養成講座」を15回継続してきました。本年はコロナの影響で中止しましたが、2021年度は16期として開催する予定であります。

第48回 2018年

団体 ねりま地域文庫読書サークル連絡会(田倉京子さん) 東京都

*9月14日に代表の関日奈子が亡くなりました。奇しくもこの日は、『50周年記念誌』が刷りあがってきた日でした。この記念誌には、昨年行った50周年記念の講演会や「ねりまの文庫50年展」の記録を掲載。また、巻末の年表には1947年〜2019年までのねりま文庫連や練馬区立図書館のあり、全国の読書運動・社会の動き、おもな児童書作品を掲載しました。ぜひお読みいただければと思います。

第49回 2019年

団体 諫早コスモス音声訳の会(中路美知子さん) 長崎県

*今年は会合の中止が続き、例会・勉強会は9月から再開、リスナーさんとの交流会に替えて「交流会CD」を制作・配布。「一枚で全会員の声を聴けたことがうれしい」など、多くのおたよりをい

いただきました。音訳図書は、図書館蔵書14冊、プライベート図書5冊完成。図書の音訳に取り組む人が増えています。

個人 村上招子さん(家庭文庫ぼと) 広島県

*いろいろな活動に、新型コロナウイルス感染防止のため新しいルールが加わりました。それでもできることに、喜びを感じています。いまだからできることを引き続き模索しながら、子どもと読書のことを考え、活動していきたいと思っています。全国のみなさんとオンラインや誌面でつながりたいですね。

個人 今井登美子さん(読み聞かせグループ「ゆめくらぶ」) 大分県

*ゆめくらぶは、みなさまと同様にコロナで半年近く、活動の場がありませんでした。とにかく、じつと、家の中で本を手にするしかなく、手帳の白いページを見つめながら、ため息ばかり……。自分にとって、この活動が単なる趣味の域を越えて、自分自身を型づくる生命の源になっていたことを思い知らされ、とてもつらい自粛期間でした。読み聞かせの形も変わってゆくのかと、心配しています。

事務局報告(11月)

☆10月27日・11月9日 第74回 読書週間

・1日・30日「図書館総合展」

ONLINE 参加

☆6日「第50回 野間読書推進賞 贈呈式」を、新型コロナウイルス感染症対策のため参加者を限定して開催。祝賀会は中止

☆9日 機関紙「読書推進運動」636号入稿

・9日「上野の森 親子ブックフェスタ」運営委員会に出席

☆10日 機関紙「読書推進運動」636号責了

☆12日「2020年度 全体事業委員会」および「第63回 こどもの読書週間 読書推進委員会」

☆10日 機関紙「読書推進運動」636号責了

☆12日 機関紙「読書推進運動」636号責了

☆14日 日本児童文学学会 研究大会の野上晴生さんオンライン講演会に参加

☆16日「若い人に贈る読書のすすめ」リーフレット入稿

☆17日「若い人に贈る読書のすすめ」リーフレット責了

☆17日 伊藤忠記念財団「子ども文庫助成」贈呈式選考会に参加

☆20日 会員社の秋田書店最高顧問・故秋田貞美氏「お別れの会」に出席

☆20日・30日「全国図書館大会 和歌山大会」オンライン参加

☆25日「上野の森 親子ブックフェスタ」運営委員会・分科会に出席

編集部・事務局のひとこと

●野間読書推進賞の贈呈式が終わり、はやひと月。宮崎のおはなしの木さんから、「例会を開催しました」とのご報告をいただき、ご参加いただいた方々からの特別なご連絡もなく、事務局一同ほっとしております。

●贈呈式はできないかもしれないが、全国各地で読書推進に尽力される方々を顕彰する機会を延期・中止する理由はないと、各方面への受賞候補者推薦をお願いしたのは、緊急事態宣言下の5月。野間会長から「状況はいいだが、できる範囲での贈呈式開催をめざそう」との指示があり、感染状況をうかがいながら、会場が密にならないよう参加者の上限を決め、マスク着用や手指消毒をお願いする方向で準備。受賞者2組からご出席の返事をいただいたことで、最終的に開催を決定しました。

●会場にお迎えできる人数は例年の半分以上のため、ご案内を遠慮させていただきました。これまでの受賞者のみなさんからは、お祝いのメッセージと、コロナ禍での近況報告を多数いただきました。リーフレットでは取まらきらず、急遽冊子を作成、なんとか贈呈式当日に間に合わせました。来年は、会場でお祝いとおたがいの活動の紹介が交わされますように。

●受賞者のみなさま、贈呈式にご参加いただいたみなさま、ご案内を遠慮させていただきましたみなさまに、感謝申し上げます。また、この状況で日々、利用者・お客さんを迎えている図書館・書店のご苦勞を、あらためてお察し申し上げます。(伸)